

大問	設問	平均点	配点	正答率	率	大学入試センター
						公表のデータをもとにして、まとめた。
数列	4 合計	7.50	16	0.50		左表がその結果である。
	アイ	1.59	2	0.80		
	ウオ	1.57	2	0.78		
	カク	1.36	3	0.45		
	ケ	1.00	2	0.50		
	コ	0.95	2	0.48		
	サ	0.69	2	0.35		
	シツ	0.33	3	0.11		
	5 合計	5.91	16	0.39		
	ア-エ	1.18	2	0.59		
統計的な推測	オ	1.18	2	0.59		■ 正答率は統計<数列<ベクトル<複素数となっている。
	カ	0.34	1	0.34		
	キ	0.75	2	0.38		
	ク-コ	0.54	3	0.18		
	サ	0.65	1	0.65		
	シ	0.33	1	0.33		
	ス-タ	0.56	2	0.28		
	チ-ツ	0.38	2	0.19		
	6 合計	7.86	16	0.51		
	ア	0.88	1	0.88		
ベクトル	イ	1.46	2	0.73		■ 「統計」の大問は(1)~(3)のパートに分かれる。
	ウオ	1.62	3	0.54		
	カ-コ	0.89	2	0.44		
	サ	1.18	2	0.59		
	シ	0.61	2	0.30		
	ス	0.74	2	0.37		
	セ	0.50	2	0.25		
	7 合計	8.65	16	0.54		
	ア-エ	1.90	2	0.95		
複素数平面	オ	1.53	2	0.76		(1)の正規分布表を使った計算(算数)ア-エが6割を切る正答率。
	カ	1.30	2	0.65		
	キ-ク	1.20	2	0.60		
	ケ	0.80	2	0.40		
	コ	0.78	2	0.39		
	サ	0.60	2	0.30		
	シ	0.56	2	0.28		
	ア	0.88	1	0.88		
	イ	1.46	2	0.73		
	ウオ	1.62	3	0.54		

設問. (2)はカ~コ. 標本平均, 信頼区間に関する設問で, カ, キは公式通りのはずが4割に満たない正答率. ク-コで初めて算数でない計算が要る設問で, 最低の正答率. (3)に今回の学習指導要領改訂で追加された仮設検定の問題が登場する. サの正答率がやや高い. $m < 110$ を検定するにあたって, 帰無仮説「 $m=110$ 」, 対立仮説「 \neq 」を6つの選択肢から選び解答する設問. 問題文に「統計的に検証したい仮設を「対立仮説」」という説明があるので, 文章をきちんと読めば正解を選べるので, 正答率が高い. これ以降は定番の計算・流れにもかかわらず正答率は低い.

■ 「複素平面」の大問も(1)~(3)のパートに分かれる.

(1) ア~カは複素数の計算をするだけなので易しく, それが正答率にも表れている. (2) キ-クも複素数 w についての偏角条件が問題文に明瞭に記述されており, 基本が分かっていれば, 容易である. (3) ケ~シは, 与えられた条件を満たす複素数 z が複素数平面上で描く図形を, 式変形と図の選択肢から答えさせる. (i)は誘導もあって難しくないが, (ii)(iii)は複素数の設定が少し面倒で, 時間切れになった受験生も多いのかもしれない.